

卒業五十五周年同窓会報告

卒業五十五周年同窓会



多くの同窓生の笑顔、笑顔

埼玉大学教育学部 昭和四十四年三月卒業生 石井 昇

私たちは昭和四十四年三月に大学を卒業して、それぞれ希望に燃えて任地に赴きました。大学時代は大学移転があり、大学紛争がはなやかなりし時です。それらが懐かしい思い出となっています。

爾来、卒業五十五周年を令和六年に迎えることとなり、齢八十に近くなり、同期の友の計報に接し寂しい思いで一杯でした。教友会の「卒業五十五周年同窓会」の企画で最後の同窓会をという打診を受け、教友会本部の温かいご配慮の下に、十一月六日にホテルブリランテ武蔵野で「卒業五十五周年同窓会」を開催する計画を立てました。野口淳一さんに世話人代表になっていただき、事務は長嶋美知子さんと私ということになりましたが、多くは長嶋さんをお願いいたしました。同窓会の発起人について、小学校課程ではなるべく多くのの人に、中学校課程ではそれぞれ教科の人に依頼し、十六人の方

になっていただきました。

会員名簿で住所が分かる方に案内状を送りました。その結果、五十名からのご参加のお返事をいただきました。(同窓会当日は四十八名出席)。こんなに大勢の方からご参加をいただけるのは予想もいたしませんでした。

十月四日に、ブリランテ武蔵野で発起人会を開催いたしました。発起人の方々の自己紹介の後、改めて発起人代表に野口淳一さんを選出し、その後、会の流れ、役割分担を検討しました。そして、十一月六日の当日を迎えました。開会前に記念撮影を、そして鬼籍に入られた仲間にも黙祷を捧げました。

大嶋伸之さんと柴崎俊夫さんの司会で、新井孝次さんの開会の挨拶があり、会が始まりました。発起人代表の野口淳一さんから挨拶とともに、教友会から多額の補助金をいただいていることの報告、

次いで教友会顧問・事務局長の金子美智雄様からご祝辞と埼玉大学ホームカミングデーへのお誘いについての説明をいただきました。さらに、金子様から、師範学校から始まる埼玉大学教育学部の成立過程について教えていただきました。

大澤初夫さんの乾杯の発声の後、懇談となりました。お酒と食事で緊張がとけたところで、各テーブルの代表一名から近況等についてお話をいただきました。ある人は大学当時をふり返り、ある人は民間会社に就職しJリーグ以前のサッカーの様子などについて話され、皆さん興味深く拝聴していただくに思われます。

飯田一恵さん率いるローズマリィバンドによって「高校三年生」、「青春時代」、「昂」の演奏が行われ、昔を思い出し、演奏に合わせ歌うなど和やかな雰囲気となり、さらに、アンコールの声が出、それに応えて「霧のカレリア」を演奏していただきました。会話も一層弾み、あつという間の二時間でした。佐藤誠造さんの締めの後、逆井洋一さんの閉会の挨拶でこの会を閉じ、最後に長嶋美知子さんから会計報告、残金は埼玉大学基金に寄付することが提案されました。

なお、同窓会は卒業五十五周年をもって一応の区切りとすること

となり、一堂にお会いする機会がなくなりましたが、同窓生の皆様がお健やかにお過ごしなされますことを心からご祈念申し上げます。報告とさせていただきます。



卒業五十周年同窓会

学生時代から「いま」を語り合う

埼玉大学教育学部 昭和四十九年三月卒業生 小川 良雄

十月になっても暑さの残る日々でしたが、同窓会当日の十月二十六日は、秋を感じさせるよき日でした。

ホテルブリランテ武蔵野六階の「藤の間」において、埼玉大学教育学部昭和四十九年三月卒業生の「卒業五十周年同窓会」が開かれました。出席者四十二名が元気に揃いました。

開会に先立って記念撮影を行い、司会の吉倉清子幹事の発声後、小川詠二幹事による「開会のことば」で開会しました。

そして、仲間の物故者の冥福を祈る「黙祷」を捧げてから、代表幹事の瀧澤重博氏による開催の趣旨とこれまでの経緯説明、学生時代から今に至る時代の流れやそれに伴う生き様や、健康に恵まれ出席できた喜びと家族への感謝の気持ちなどが強調された挨拶がありました。

続いて、ご来賓の教友会会長の松澤勇治様からご祝辞をいただきました。卒業五十周年という記念となる同窓会開催のお祝いとともに、幹事をはじめ、元気に参加された会員の皆様への感謝の言葉を

いただきました。特に、七十代・八十代を生き生きと過ごすコツとして、五つの「か・き・く・け・こ(感動・機嫌よく・工夫・心身の健康・交流)」が大切ではというお話は、参加者一同、感銘深く拝聴させていただきました。

また、前教友会会長の金子美智雄氏がまとめた「埼玉大学の今昔」がYouTubeで見られること、十一月二十三日の埼玉大学ホームカミングデーでは、「埼玉大学創基百五十周年記念年表披露式」が開催されるとの紹介とお誘いがあり、「皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。」との言葉で結んでくださいました。

次に、蓮見木予子幹事より乾杯の発声があり、すぐに気分は学生時代に。学生時代のクラスや教科等の仲間が近くなるよう座席を配慮したため、あちこちで和やかな会話が始まりました。

しばらくして、司会が小川詠二幹事に代わり、参加者による「近況報告」をお願いしました。皆さん快く座席順にマイクを持ってお話ししてくださいました。学生時代のこと、卒業後の仕事(教員だけ

でなく様々な職業)に就いたこと、そして定年退職してから「いま」を含めて話すとかかなりの時間を要する方もいました。

定年退職して十二年が過ぎた私たちですが、今でも臨時的任用職員として授業をされている方、あらためて趣味を見出し没頭されている方、地域貢献に尽力されている方などなど、充実された「いま」を過ごしている元気な仲間の存在を知りました。

一人二分以内での近況報告をお願いしたのですが、それでは足りないくらい内容がいっぱいの方もおられました。さすがは大人の対応、見事、既定の時間内にきっちり納まりました。

歓談後は、相馬優子幹事による「締め」を行い、閉会のことばの前に、口頭による会計報告(教友会からの補助と皆様からの会費で諸経費を賄い、残金が生じた場合は、埼玉大学基金に寄付する)を行い、承認を得ました。

「閉会のことば」を吉倉清子幹事が行い、五年後の再会を祈念してお開きとなりました。

なお、開催にあたって、開催案内やしおり、名札や席札等を新井良和幹事と岡田謙司幹事

が担当し、会を支えてくれました。教友会のご支援や皆様のご協力に感謝いたします。



卒業四十五周年同窓会

五年後、皆さんとお会いできる日が、
待ち遠しくなりました

埼玉大学教育学部 昭和五十四年三月卒業生 角田 守

私たち(卒業生五四三名)の同窓会は、今回が三回目です。初回は、平成六年に実施した卒業十五周年記念同窓会で、九十名が集いました。第二回は、平成二十九年十一月開催の退職時期同窓会です。九十三名もの仲間が集い旧交を温めました。そして今回、令和六年十月十九日(土)、ホテルプリランテ武蔵野に五十名が集い、お陰様で盛大に開催することができました。学年理事一同(磯真砂子さん、内田道雄さん、櫻井康博さん、田辺曉己さん、中村健さん、中村敏男さん、角田守)、心から感謝を申し上げます。

受付は、内田さん、田辺さんが担当です。開宴(正午)に先立ち、中村(健)さんから諸連絡、いよいよ開宴。司会は中村(敏)さんと角田です。引き続き中村(健)さんの開会の言葉の後、これまでに鬼籍に入られた仲間を偲んで黙禱を捧げ、ご冥福をお祈りしました。その後、ご来賓の校友会副会長長福島正美様が、ご入場されました。

先ずは、私から学年理事代表挨拶をさせていただきます。

次に、ご来賓の福島様からご祝辞をいただきました。校友会会報 教友第九十四号をご用意いただき、埼玉大学教育学部・校友会のこれまでの歩みについてご説明をいただき、「二〇二四年十一月二十三日(土・祝)埼玉大学ホームカミングデー」についてのご紹介もありました。昨年、金子美智雄先生(本会の前会長で現顧問兼事務局長)が講演された内容を元に作成された年表(縦九十七センチメートル横五メートル)が、教育学部に寄贈されることになったそうです。その披露式も予定されており、奮ってご参加いただければとのことでした。

そして、磯さんの乾杯のご発声の後、いよいよ歓談となりました。以下、主な話題について記します。かつての仲間との近況報告、孫の世話、家庭菜園(畑の広さや作物の種類など)、ご逝去された仲間との懐かしい思い出等々、枚挙に暇がありませんでした。お互いに

旧交を温め、楽しいひとときとなりました。

続いて、一分間スピーチです。テール毎の発表者は、快諾してくださった岡野一平さん、青木光一さん、金澤和春さん、田辺曉己さん、福田寛之さん、岡田直人さん、森真一さんです。大学や教員時代の思い出、定年退職後の日々の暮らし等について、熱く語っていただきました。発表者の皆様へのプレゼントですが、埼玉グッツ(メリンちゃんぬいぐるみ、埼玉タオルハンカチ、一口羊羹等)を購入し、お渡しする際、櫻井さんが簡単な説明を添えました。発表者の皆さん、本当にありがとうございました。

閉会の言葉は田辺さんです。磯さんからは、集合写真撮影の諸注意があり、速やかに撮影も終了し、閉宴となりました。

さて、私たち学年理事七名の同窓会開催に向けての動きを申し上げますと、初顔合わせは、昨年の六月十七日(土)、校友会定期総会が開催されたプリランテ武蔵野でした。総会終了後、同窓会の実施の有無について皆で話し合い、総意により、絶対にやろうということになりました。その後、浦和・川越・大宮で計四回実施した学年理事会でわいわいやりながら、漸くこの日を迎えることができました。

出席者の皆さんから温かい言葉をたくさんいただき、学年理事一同、感無量でございます。

結びに、再会の機会を設けてくださった校友会の皆様へ、深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

五年後の卒業五十周年同窓会により大勢の同窓生が、健康で明るく元気にご出席いただけることを願いつつ、今回の同窓会開催報告とさせていただきます。



卒業四十周年同窓会報告

年年歳歳花相似 歳歳年年人不同

それでも気持ちちは

埼玉大学教育学部 昭和五十九年三月卒業生 吉野 寿一

残暑の令和六年九月八日(日)午後一時、ホテルプリランテ武蔵野二階「サファリア」にて、来賓の教友会副会長 蓮見木予子様をお招きして、卒業四十周年同窓会が開催されました。

退職時の同窓会はコロナ禍の真ただ中で開催ができず、三年後の令和六年に、ようやく今回の卒業四十周年同窓会を実施できましたことに感無量です。

出席者数は三十八名と、卒業十五周年で行いました同窓会とは規模こそ縮小されたものの開催でしたが、お互いに還暦を超え、退職をしてこうして集う同窓生には感謝しありません。

都合で参加できなかった多くの同窓生からもメッセージをいただいています。四十年もの月日が流れても、こうして母校や卒業生へ向ける気持ちは計り知れないものを感じました。二十代の多感な時期を共に過ごした学友たちの弥栄を願うばかりです。

会が始まる前に、YouTubeの「埼玉大学の今昔」を視聴し

ました。皆さんの記憶にない、進歩している母校埼玉大学の今に驚いている姿も見られました。

その後、本日の記念として集合写真を撮りました。レンズの前の姿は、大学卒業後四十年の貫禄あるものでしたが、皆の表情からは、写真には写らない四十年前の青春の息吹あふれる若々しさを感じました。

開会の言葉の後、若くして逝った学友の冥福を祈り、黙祷を捧げました。

学年代表理事の引間和彦氏のあいさつに続き、教友会副会長 蓮見木予子様からご挨拶を賜りました。教友会の今についてや退職後のご自身のことについてのお話を伺いました。

乾杯の後、大いに旧交を温め、思い出を語り合いました。

会場には、八人掛けの円卓が五卓ありました。席はくじ引きで決めたため、乾杯直後の最初こそ社交辞令的なあいさつで静かな感じではありましたが、盃を重ねるごとに昔を思い出してきたり、意外な繋

がりを確認し合ったりして、段々と賑やかになってきました。

お互いに、専修や専攻は異なっているものの、昔話に花を咲かせたり、現状報告をしたりと、こ

こまでは、卒業十五周年の同窓会と変わりませんでしたが、しかし、お互いに還暦を過ぎた身になると、あそこが痛い、ここ

が悪いと健康状態のことや、いつまで働くか、年金をいつもらうのか、将来への不安など、十五周年の同窓会では思いも

しなかった話題で盛り上がりつつありました。会場では次第に席

が移り変わりし、大いに盛り上がり、時の経つのも忘れるほどでした。

七五三の詞、閉会の言葉と、あつという

間の二時間半でした。次回、卒業四十五周年同窓会での再会を約束し、小雨の煙るそれぞれの帰路へと向かっていきました。結びに、「卒業四十周年同窓会」



へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆様に深く感謝申し上げます。本会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

卒業三十周年同窓会

同じ教室で四年間一緒に学んだ
クラスメートのような同窓会

埼玉大学教育学部 平成六年三月卒業生 細村 一彦

令和六年九月十四日(土)、ブリランテ武蔵野において、平成六年三月卒業の埼玉大学教育学部三十周年同窓会が開催されました。今から十五年前の平成二十一年に大学卒業十五周年同窓会を開催した後、二回目の同窓会となりました。

校友会名簿で確認しますと、平成六年三月の教育学部卒業生は、六一五名でした。しかし、令和六年五月現在、連絡可能な方は一九一名(案内郵送後、約二十通が宛先不明として戻ってきました)しかおらず、何名の出席があるか不安でした。

出欠確認については、申し込み締め切り日まで二カ月の期間を取り、尚且つ、申し込みしやすいようにQRコードを使用したのですが、出席者は学年理事を含め十七名でした。ありがたいことに、遠くは、香港から参加された方がいらっしゃいました。

参加者が十七名しかいませんでしたので、開催して良いのかといった不安な気持ちでしたのですが、同窓会当日は、再会を喜ぶ歓声が

上がり、会場全体が学生時代にタイムスリップしたような雰囲気となりました。

開会に先立っての記念撮影後、司会の下妻淳志幹事の開会の言葉で開宴しました。

続いて、御来賓である校友会副会長の大澤利彦様から御祝辞をいただきました。御祝辞のなかで、私たちが大学在学中の世相等の資料を御用意いただき、当時を振り返るきっかけになりました。また、校友会として会員相互の親睦を図り、本会の目的達成に向けて「卒業五X周年同窓会」を開催できるように取り組んでおり、まさに本日がその会の一つであることも話されました。

次に、神田卓也幹事による乾杯の発声により、すぐに気分は学生当時に戻り、和やかな懇談が始まりました。テーブルごとに青春を謳歌しているかのような笑顔や笑い声があふれていました。

参加者が十七名でしたので、急遽、一人一言のスピーチをいただくことにしました。学生時代の懐

かしい思い出、今だから言えること、授業中や教授のエピソード、大学卒業後から現在までの様子、子育て、近況等について、お一人お一人が笑顔で楽しそうに懐かしさをかみしめながら話されていたことが印象的でした。スピーチを

聞いている方々からは「そうだったな」「懐かしいな」と言った声が上がりました。懐かしさで全員がスピーチを終えることができませんでした。十七名の教科専修や専攻は違いますが、また、当初初めてお会いした方もいましたが、同じ教室で四年間一緒に学んだクラスメートのような感覚が生まれました。

御来賓の大澤利彦様からは、「全員がスピーチでき、とても雰囲気の良い同窓会ですね。」とお褒めのお言葉をいただくことができました。参加人数が少なくても、同窓会を開催して良かったと思える瞬間でした。

懇談後、杉澤肇幹事の締めにより、盛大に同窓会が開きとなりました。帰る際には、参加者の皆様から「ありがとう」の言葉をたくさんかけていただくことができ、幹事冥利に尽きました。

今後、卒業五X周年同窓会を企画する幹事の方への引継ぎです。出欠確認にQRコードを利用したのは負担削減になりました。メールアドレスを入力する項目は必

須です。直前まで参加者と容易に連絡を取り合うことができました。



会計報告を期間限定のウェブ公開としたことも負担軽減になりました。会計報告は、急遽欠席者が出る場合もあり、事前の作成が難しく、全て確定した後の発送は負担軽減やペーパーレス化を図ることができました。

結びになりますが、校友会事務局の皆様、ブリランテ武蔵野のスタッフの皆様、参加していただいた皆様に感謝申し上げます。卒業三十周年同窓会の報告とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

卒業十五周年同窓会

十五年ぶりに「大学生」に戻った同窓会 〜むつめ祭とBe-PLANT 12h〜

埼玉大学教育学部 平成二十一年三月卒業生 岸本 航司

令和六年十一月二十四日(日)、埼玉大学むつめ祭及び大学前のレストラン「Be-PLANT」にて、平成二十一年三月卒業生の「卒業十五周年同窓会」を開催しました。第一部・第二部延べ二十三人にご参加いただきました。

コロナ禍もあり、なかなか同期の仲間との連絡もつきにくくなっていた中ですが、せっかくの機会ですので、参加される方が少しでも大学時代を懐かしく思い出すとともに、新たな交流と活力を生み出せるような会になるように、学年幹事一同、アイデアを出し合いながら準備を進めました。

教友会にもご協力いただき、はがきでの案内状を送らせていただいた他、様々な手段で同窓生の皆様にご案内をさせていただきました。当日のご都合が合わない方もいらっしやいました。そういつた方々からも、幹事への労いや次回を楽しみにされるメッセージをいただき、嬉しく思いました。

第一部の「むつめ祭参加」は、さすがに晴れ渡った秋らしい



天気の中で行われました。コロナ禍も落ち着き、大学生の皆さんの笑顔と活気にあふれる大学構内。むつめ祭実行委員の多彩な企画や様々な部活動やサークル等の発表や模擬店などがありました。私たちも、大学内の思い出の場所を、切り抜かれた写真のヒントをもとに巡るオリエンテーリングを行いました(幹事企画)。昔と変わらな

ない場所もあれば、初めて見る施設や記念樹、作品などに驚かされる所もありました。大学生時代の気持ちに戻りながら、懐かしい話にも花が咲き、あつという間の二時間となりました。最後は裏千家茶道部の茶会にて、趣深い時間を皆で楽しみました。

第二部は、大学時代の思い出のレストラン「Be-PLANT」を特別に半貸し切りにさせていただきました。学生時代に憧れと特別感を感じていたこの店で、久しぶりに会う仲間とともに時を過ごすことはとても嬉しく、感慨深い時間となりました。

ご来賓として、教友会副会長の

石田耕一様にご臨席いただきました。石田先生は私たちが大学三・四年生のときに教職支援室にてご指導いただいた先生でもあり、当時のことも振り返りながら、埼玉大学の移り変わりについて様々なお話をいただきました。教育とは何か、改めて原点を考えるきっかけもいただきました。

お互いの顔がよく見える座席でしたので、自己紹介や近況報告なども一人一人行うことができ、様々な縁やつながりを感じることも多々ありました。懐かしい大学時代の話、むつめ祭のできごと、子育てや仕事の悩みや楽しみ、埼玉大学クイズや豪華記念品の数々、「Be-PLANT」のおいしい食事とともに楽しい時間を過ごしました。

最後に記念撮影をしてお開きとなりました。ちなみに参加者でライングループを作り、それぞれが第一部、第二部で撮影した写真を共有しました。画像とともに、同窓会で仲間と語り合った楽しい思い出をお持ち帰りいただきました。幹事としては、この同窓会がきっかけとなって、同期の皆様との縁が再び結ばれ、繋がっていたいくことを願っています。

結びに、「卒業十五周年同窓会」へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆様に深く感謝申し上げます。本会の益々のご発展を

お祈り申し上げます。

なお、少額ではありますが、「埼玉大学基金」に残金を寄附させていただきましたことも含め、同窓会報告とさせていただきます。皆様、ありがとうございます。

